

発芽期のパクロブトラゾール散布による「白川」の着果安定

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

担当者：北園邦弥

研究のねらい

熊本県育成の温州ミカン「白川」は珠心胚実生由来の品種であるため、通常の栽培管理では樹勢が強くと結実不安定に陥りやすい。このため、新梢伸長抑制剤として登録されているパクロブトラゾール（バウンティーフロアブル）の新梢伸長の抑制効果を検討し、樹形のコンパクト化及び着果安定を図る。

研究の成果

- 1 発芽期の処理濃度は250～1000倍で新梢伸長抑制効果がみられる。特に5cm以下の短い新梢割合が高くなり、20cm以上の長い新梢の割合が少なくなる。
- 2 ミノルタのSPAD計で新梢の止め葉の葉色を測定したところ、無処理区に比べて処理区で高く、新葉の緑化が早い。
- 3 処理による着花数の増加はみられないが、着果率の向上により着果数が増加する。特に500倍での効果が高い。

以上のことから、発芽期のパクロブトラゾール散布により、「白川」の新梢伸長が抑制され、芽かぎ等の管理作業が軽減されるとともに、新葉の緑化が早く、着果率の向上がみられることから、「白川」の着果安定が図れる。

普及上の留意点

- 1 現在登録されているバウンティーフロアブルの処理濃度は250～500倍で、散布量は10a当たり200～300リットルである。
- 2 珠心胚実生系等の樹勢が強くと新梢伸長が旺盛な品種に適用できる。
- 3 上向きの強く長い枝や、基部が大きい結果枝痕は、散布前のせん定時に基部から除去しておく必要がある。

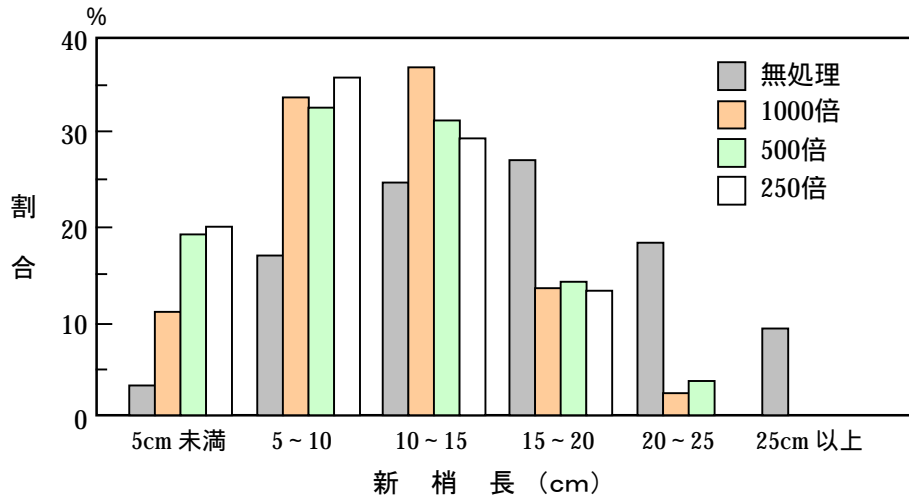


図1 発芽期のパクロトラゾール処理が新梢長に及ぼす影響
注) 処理日：平成10年4月7日

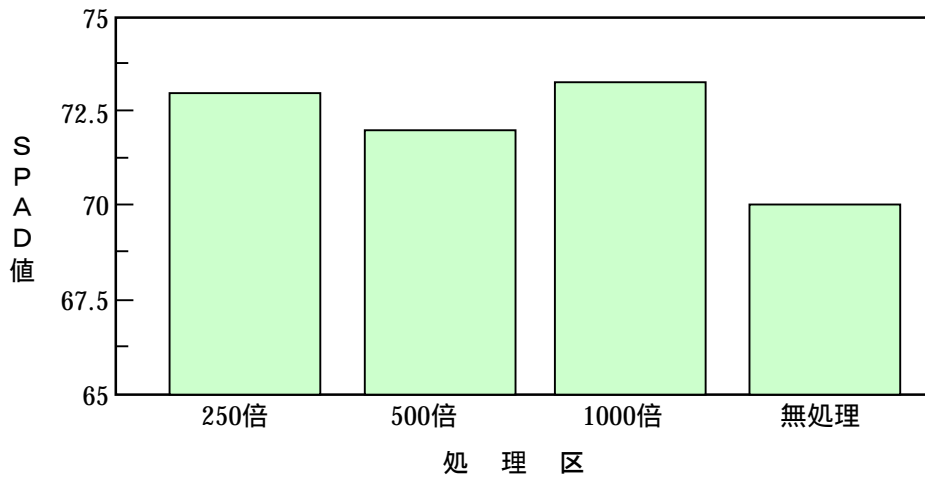


図2 発芽期のパクロトラゾール処理が春葉の葉色に及ぼす影響
注) 平成10年6月11日調査

表1 発芽期のパクロトラゾール散布が新梢長、着花(果)数、着果率に及ぼす影響

処理区	新梢長 (比数)	節間長 (比数)	1母枝当り		着果率 (比数)
			着花数 (比数)	着果数 (比数)	
	cm	mm	個	個	%
250倍	9.3 (59.2)	1.25 (62.2)	5.33 (98.2)	0.89 (136.9)	16.62 (138.7)
500倍	9.7 (61.8)	1.44 (71.6)	5.85 (107.7)	1.19 (183.1)	20.34 (169.8)
1000倍	10.6 (67.5)	1.59 (79.1)	5.38 (99.1)	1.04 (160.0)	19.26 (160.8)
無処理	15.7 (100)	2.01 (100)	5.43 (100)	0.65 (100)	11.98 (100)

注) 処理日：平成10年4月7日